

第2回京都市地域コミュニティ活性化推進計画」の改定に向けた第2テーマの検討部会

1 日 時 令和元年12月5日(木) 午後6時～7時30分

2 場 所 職員会館かもがわ 大多目的室

3 出席者 委員6名

事務局(樋掛地域コミュニティ・北部山間振興部長, 大東地域づくり推進課長, 川瀬市民活動支援課長, 他)

4 概 要

事務局から資料3を基に前回の議論の概要等について説明

～「地域の特性やライフステージに応じた多様な地域コミュニティの活性化策」について、ワークショップを実施～

(ワークショップで出た主な意見)

- ・ 今後は、人口構造をベースに、地域特性やライフステージの側面から分析し、マーケティングした上で、それぞれに合わせて必要な支援を考えていくことが必要である。
- ・ 地域によって実情は多様である。町内会アンケートの結果を学区ごとに見える化し、自分たちの地域の実情を知ることができれば、抱える課題や必要なサポートも見えてくるはずである。
- ・ 学区の中で各種団体の力を引き出していくような、リーダーの役割は大きい。リーダー層をどう育てていくか、担い手づくりが重要となってくる。
- ・ ライフステージに応じて地域に求めることを考えたとき、自治会だけでは対応しきれない。例えば、介護などの課題やテーマでのつながり、地縁によらないコミュニティにも目を向けるべき。
- ・ 地域の各種団体の状況や課題、団体がどういうところとつながりたいかなどを明確にして、地域団体間の連携の必要性を議論すべきである。例えば、おやじの会は地域のいろんな行事に参加できるという柔軟性があり、組織を超えたつながりがある。
- ・ 高齢化による担い手不足で町内会を維持することが難しいようなら、町内会の合併や仕事の棚卸しも考えていかなければならない。
- ・ 町内会に参加することでどのような意義・メリットがあるのかということ示さないとだめだと思う。防災とか防犯とか、メリットを具体的に示していかないといけない。